

小中学生の部

佳作

お母さんの毎日のご飯

長野県山ノ内中学校三年

渡邊みゆ

この夏、お母さんが十日間居なかったことがありました。その間は、お父さんと二人暮らしでした。家事は二人で分担し、食事はほとんどお父さんでした。でも、時々私が作ることもありました。

ある日私は、お昼ご飯に自分の大好物である「オムライス」を作りました。ケチャップライスを卵焼きで包む作業は、破れないよう綺麗に巻けて、その上にケチャップでデコレーション。お父さんにも褒められて、素直に料理が楽しいと思えました。私は調子に乗って「明日も作るからね。」と口にししました。

次の日のお昼ご飯。なかなか作る料理が決まりません。昨日の夕食は肉だったし、材料ありません。考え出すと決まらなくて、イライラしてきました。お母さんの料理を思い出してみると、どんどんアイディアが浮かんできました。牛百分のハン

バーグ。生地から作ったピザ。ひらべったくて大きな山賊焼き。バリエーション豊富でびつくりしました。いつも昨日とは違うつり合いのとれた料理が並んでいたことのが実感できました。

お母さんが、いつも聞いてきた、

「ご飯は何かいい？」

私はなんで聞いてくるのだろうか、いつも面倒くさくて適当に答えていました。ごめんね。毎日違った料理を作ることが、こんなにも大変だったんだね。仕事で疲れていても、口喧嘩をしたって、プレートにきれいに盛り付けて、私を喜ばせてくれるのが、とても嬉しかったよ。だから、毎日のご飯がこんなにも楽しみだったんだね。

それと、大会の日にもっていくお弁当。みんなから褒められて、私も誇りに思えたよ。朝早くから握ってくれる、しなしなになったのりで包んだ梅干しおにぎりは、体に染み込んでいて、お母さんの気持ちまで伝わってきた気がしました。

お母さん、毎日のおいしいご飯ありがとう。これからもよろしくお願いします。